The Geological Society of Japan

短　　報

關陽太郎*: 北上山地で發見された花崗閃綠岩礫をふくむ輝綠凝灰岩質礫岩層

筆者は，岩手縣宮守地方の超鹽基性岩類の研究の過程で，同地方に廣く發達するいわゆる古生層中に，花崗岩質の圓礫を極めて多くふくむ輝綠凝灰岩礫層を見出した．その地質概略は次のようである．

宮守地方を中心に N20～30°W の方向にのび，東西 5km，南北 20km に發達する宮守超鹽基性複合岩體と，その東方に，遠野町を中心に廣く分布する花崗岩體との間には，主として石灰岩，砂岩・頁岩互層よりなり，ペルム紀と思われる古生層があり，花崗岩體貫入に伴う變成作用によつて廣範圍にホルンフェルス化している．この古生層塊は，宮守村附近では東西 3～5km の幅で，ほゞ NW の走向を保ちつつ，低角度の複褶曲をなしている（圖中には，その中の片理面—多くの場合層理面を切つている—の方向を示している）．

この古生層は，宮守超鹽基性岩體に接する一部では，輝綠凝灰岩層を主とするものになる．この間の關係は，露出がきわめてわるいために未だ明らかではない．この輝綠凝灰岩層は，宮守村新町北方で，花崗岩礫を多くふくむ輝綠凝灰岩層にうつる．

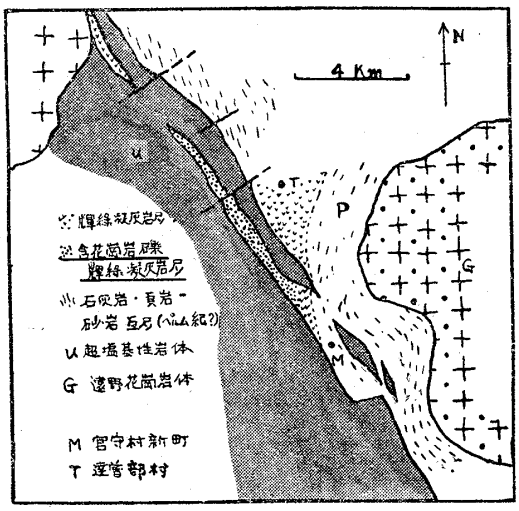
この問題の含礫層は，現在では，主に超鹽基性岩體の主體と，その分枝との間に夾在し，山頂を構成するか，又は第四紀層におおわれているために，地質關係はくわしく調べられない．

圓礫の種類は，花崗岩礫の外に，チャート・石英斑岩・硬砂岩でその他に火山岩屑及び頁岩・砂岩の破片があり，石灰岩質のものは見られない．花崗岩礫は徑 5cm～7cm でよく水磨されており，中粒均質，灰白色のものである．鑛物成分は，斜長石＞石英＞正長石＞黑雲母＞褐綠角閃石（量比順）で，その他に燐灰石，ジルコン，電氣石及びアラナイトがあり，全體として相當粒狀で，風化の程度はよわい．ジルコンの多いことは特徵的である．

基地の輝綠凝灰岩は，肉眼的には灰暗綠色で，石英，長石の粒を多くもつた緻密なものである．鏡下での觀察によると，新鮮な褐綠色の角閃石の他は，綠泥石・epidote（兩者で，全體の 25% 容量比を占める）・斜長石（曹長石化，綠泥石化す）・石英粒を主としている．頁岩質の小破片を除いては，明白な trachytic 又は basaltic texture をもつた火山岩屑が多い．全體として，この輝綠凝灰岩層は相當鹽基性のものと考えられる．

本邦の古生層中にある花崗岩礫をふくむ地層としては，いわゆる薄衣礫層があるが他には見出されていない．この薄衣礫岩層の基地は，頁岩，砂岩及び石灰岩であると今まで報告されている．ここに報告した礫岩層が古生層に屬することは一應疑いないとしたならば，これがいわゆる薄衣礫岩層の一部か，それとも更に下部層に當るものかということが問題になる．今まで報告されていない，このように多くの花崗岩質圓礫を含む輝綠凝灰岩質岩相なるが故に，その地史學的位置の究明は重要な事であろう．

1951. 5. 29



* 埼玉大學文理學部地學教室

NII-Electronic Library Service